

大谷大学のあゆみ

真宗大学
清沢満之

History of Otani University
Kiyozawa Manshi
& Shinshu University

2018
4/3 tue — 5/19 sat

休館日 日・月曜日、祝日
(ただし5/7日・5/14日は開館)
開館時間 午前10時～午後5時
(入館は開館の30分前まで)
観覧料 無料

大谷大学博物館
Otani University Museum



- 28 「真宗大学新築の位置に就いて」
〔『教界時言』第9号〕 1冊
基本活版 明治時代(明治30年=1897)
大谷大学図書蔵
東本願寺の寺務改正と教学刷新を訴える清沢満之が、明治29年(1869)に創刊した『教界時言』に掲載した論文。真宗大学の所在地について、京都・東京の両京設置と東京先行を主張する。
- 29 「真宗大学敷地購入校舎建築ニ関スル書類」 1冊
野城泰書 明治時代(明治32～33年=1899～1900)
大谷大学図書蔵
真宗大学東京移転の題の敷地購入・校舎建築に関する書類。清沢満之ら7人が建築掛に任命され、その用地は東京府北豊島郡栗鴨村大字栗鴨字宮仲(現・東京都豊島区土泡袋一丁目)に求められた。
- 30 「知進守退碑」拓本 1幅
基本活版 原碑:明治34年(1901)
大谷大学図書蔵
東京開校を記念して建立された石碑の拓本。東本願寺第二十三代彰如(句仏)の筆による。「知進守退」は、中国北魏の僧である曇鸞の『浄土論註』に由来している。裏面には、第二代学長南条文雄による真宗大学の沿革が刻まれる。
- 31 真宗大学東京移転記念写真 1枚
モノクロ写真 明治時代(明治34年=1901)
真宗総合研究所大谷大学史料室蔵
真宗大学の東京移転につき、東山の谷口祖庵に参拝し、知恩院山門前で撮影された記念写真。「大谷の松吹く風の音は永く忘るゝことが出来ぬ」という歌が扉紙「精神界」に残されている。
- 32 「真宗大学移転開校式」〔『無尽灯』6巻10号〕 1冊
基本活版 明治時代(明治34年=1901)
大谷大学図書蔵
明治34年(1901)10月13日、東京真宗大学は開校式を挙げた。式典会場は、図書館閲覧室で、まず正面の仏壇が開かれ、一同起立に続いて「君が代」が演奏され、南条文雄による「教育勅語」奉読の後、初代学監(学長)清沢満之が「開校の辞」を読んだ。
- 33 「毎学年各学科担任表」 1冊
基本墨書 明治時代(明治34～44年=1901～11)
真宗総合研究所大谷大学史料室蔵
真宗大学の学科担任表。本科(宗門の須要に応ずる学科を教授する)、予科(本科に入るための予備の課程)、各学年の学科担任者が記され、開校にあわせて教授陣の充実が図られたことがうかがわれる。

- 34 『日誌』 7冊のうち
基本墨書 明治時代(明治31～40年=1898～1907)
大谷大学図書蔵
真宗大学で記された日誌。明治36年(1903)6月6日には、初代学監(学長)清沢満之の逝去について学内の様子が記されている。真宗大学は臨時休校し、午前10時の出館時刻にあわせた講堂での追悼会で哀悼の意を表した。
- 35 「所化学籍」 2冊
基本墨書 明治時代(明治32～40年=1899～1907)
真宗総合研究所大谷大学史料室蔵
真宗大学入学者の学籍簿。所化とは学生のこと。東京開校当時は予科97名、本科61名、研究院17名の合計175名が在籍していた。
- 36 「所化心得并寄宿舎規定」 1枚
基本活版 明治時代(20世紀)
大谷大学図書蔵
真宗大学の学生の心得と学生寮の規則。学生の心得の第一は、「宗義を信奉し智慧をし、布教伝道の基を建つべきこと」と記される。学生の多くは横内の寄宿舎で共同生活を営んだ。
- 37 掛時計 1点
時計 明治時代(20世紀)
大谷大学図書蔵
真宗大学時代に使用されていたと思われる掛時計。精巧舎(現セイコー)製。明治34年(1901)8月、東京株式取引所仲買人の玉塚栄次郎より寄贈された旨が記される。
- 38 真宗大学広蓋 1面
本紙活版 明治時代(20世紀)
大谷大学図書蔵
真宗大学で使用されていた武笠。背面に金文字で「真宗大学」と記す。
- 39 西洋鐘 1点
青銅製 1905年製造
大谷大学蔵
明治36年(1903)の銘があることから、真宗大学時代に使用されていたものと思われる。
銘は「ALSTON/1903/WEST HARTLEPOOL」とある。



- 地下鉄丸の内線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 池/バス「北大路(スターミナル)」「下横町」
- 「北大路駅」下車
- 駐車場はございませんので、お車での来館はご遠慮ください。ただし、身障者等の車の場合は事前にご連絡ください。

次回展覧会 (予定) ※都合により変更する場合があります。

夏季企画展
みやこの年中行事
2018年6月12日(土)～7月28日(土)



京都大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

大谷大学博物館
Otani University Museum

T 603-8143 京都市北区小山上総町 豊流館1F
Tel. 075-411-8483 Fax. 075-411-8146
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大谷大学は、明治34年(1901)開校の真宗大学にはじまります。初代学監(学長)清沢満之は「開校の辞」において、真宗大学の特質を「宗教学校」、ことに「浄土真宗の学場」として「自信教人信の誠を尽くす人物を養成することにある」と明示しました。他の大学が近代的な諸学を求めながら、真宗大学は宗教を重視し、「真宗」を明らかにする人間教育の場として、独自のあり方を築きました。

この企画展では、清沢満之、浩々洞、真宗大学東京開校の3コーナーを設け、本学が所蔵する資料から当時を回顧します。

I 清沢満之

1 「清沢満之肖像」 1冊

油彩画布 中村不折(1866～1943)筆
明治時代(明治38年～1905)
大谷大学蔵

初代学監(学長)清沢満之(在任期間：1901～02)の肖像。清沢は東京大学で哲学を専攻し、著作である『宗教哲学概骨』は明治26年(1893)に行われたシカゴ万国宗教大会で好評を博した。また雑誌『教界時評』の発刊、東京本郷での浩々洞の結成など、宗門改革や人材の養成に尽力した人物としても知られる。平時は大谷大学講堂に第二代学長南条文雄、第三代学監佐々木月穂の肖像とともに掲げられている。

2 『宗教哲学概骨』 1冊

紙本活版 明治時代(明治25年～1892)
大谷大学図書館蔵

清沢の最初の著書で、宗教哲学の概説書。真宗大学寮における講義の要旨で、稲葉昌九の序が付される。書名の「概骨」には、すべての骨髄を備えて、生涯の思想を貫く、清沢の基本姿勢があらわれている。

3 *The skeleton of philosophy of religion* (宗教哲学概骨) 1冊

紙本活版 明治時代(明治26年～1893)
大谷大学図書館蔵

『宗教哲学概骨』の英訳本。野口善四郎訳。明治26年(1893)アメリカ・シカゴで開催された「コンピア世界博覧会」では「万国宗教大会」が行われ、野口は「世界の宗教」という発表の中でこの書を紹介した。

4 『歎異抄』 2冊のうち

紙本木版 江戸時代(元禄14年～1701)
大谷大学図書館蔵

親鸞の門弟春門の著作とされ、簡語にそむく異端を歎き、誤りをただしで正解を示した。清沢は本書を「安心第一の書」として尊重し、自己実存の要求に基づいて他方信仰の核心に触れた。

5 『阿含経』(縮刷版大蔵経) 1冊

紙本活版 大正時代(大正3年～1914)
大谷大学図書館蔵

初期仏教の経典で、長・中・雑・雑一阿含の四阿含からなる。清沢は本書を「東洋第一の書」と呼び、釈尊の出家修道の精神、さらに親鸞聖人の説く「真の仏弟子」の意義を問うた。

6 *The teaching of Epictetus*

(エピクテタスの教訓書) 1冊

紙本活版 1892年
大谷大学図書館蔵

エピクテタスは奴隷の身でありながら心の自由を叫んだ古代ギリシアのストア派の哲学者。清沢はこの書に人間の自由と分限ということを学び「西洋第一の書」と仰いだ。

7 『保養雑記』(第宅編) 1冊

紙本墨書 明治時代(明治27年～1894)
大谷大学博物館蔵

清沢自筆の日記。清沢は明治27年(1894)4月20日に肺結核の診断を受け、6月より兵車馬車水にて静養する。本書は、この静養時期の7月28日から9月12日までの記録。白らを「石水」と号し、自身の体調などの状況を記録しつつ、死と対面した時期であった。

8 「清沢満之書状」1通

紙本墨書 明治時代(明治28年～1895)
大谷大学図書館蔵

東本願寺に対し財務整理と教学振興を勧奨していた清沢らは、学制改革に着手したが本山との対立により頓挫した。本品はこの頃の清沢の心境を知る好例の資料であり、本格的な教学刷新運動への決意が見受けられる。

9 蓮如四〇〇回御遠忌記念集合写真 1枚

モノクロ写真 明治時代(明治31年～1898)
真宗総合研究所大谷大学史料館蔵

蓮如四〇〇回御遠忌の際に撮影された写真。清沢のほか南条文雄・関根仁心・朝永三十郎・曾我龍深・金子大栄などの姿が見える。この年、清沢は『教界時評』を創刊し、『臘臘記』を記録している。

10 『臘臘記』 2冊

原本：紙本墨書 原本：明治時代(明治31～32年～1898～99)
大谷大学図書館蔵

明治31年(1898)8月15日から翌年4月5日までの清沢の日記の影印本。白らを無用の者という意味で「臘臘」と号し、失念と煩悩の中で日々のお出来事とその時々去来した思想や信念が吐露されている。

11 「清沢満之肖像」1冊

紙本石版 中村不折筆
明治時代(明治42年～1909)
大谷大学博物館蔵

清沢の肖像画。原画はNo.1の肖像画と同じく中村不折が描く。東本願寺第三代彰如(何仏)が「南仏にも仏性あらばこの蓮子」というユーモラスな賛を記す。清沢満之の七回忌には石版刷にて制作配布された。

2018年度 春季企画展 大谷大学のあゆみ 清沢満之と 真宗大学

12 「清沢先生終焉記」(『精神界』4巻6号) 1冊

紙本活版 明治時代(明治37年～1904)
大谷大学図書館蔵

清沢の最期を看取った原子敬宣の日記。遺言を聞かれた清沢は「何にもない」という言葉を残した。『精神界』に掲載されたもので、清沢が自ら筆を執り佐藤信次ら宛てた編書きを付している。

13 「我は此の如く如来を信ず(我信念)」 10枚のうち

複製(原本：紙本墨書)
原本：明治時代(明治36年～1903)
大谷大学博物館蔵

清沢の晩年の影印本。晩年の清沢の信仰がうかがえる好例の資料。「私に対する」無限の慈悲、無限の智慧、無限の能力の存在を信じるのが「我信念」であるとした。如来を信ずることにおいて、虚心平氣にこの世に生死することを得るのが清沢の精神主義である。

II 浩々洞

14 浩々洞洞人寄書(師友相照) 1冊

紙本墨書 明治時代(19～20世紀)
大谷大学博物館蔵

清沢没後の記念に洞人等によって作成されたと伝えられる寄書。洞人12名のほか、上部には清沢の次男・即住による寄書もみられる。

15 浩々洞三羽鳥墨跡 3幅

紙本墨書 大正時代(大正2年～1913)
大谷大学博物館蔵

若くして亡くなった奥崎の妻房子のために、佐々木月穂・多田静・奥崎の3人があらわした書。清沢のもとに最初に集まった3人は「浩々洞の三羽鳥」と称された。

16 『精神界』 全141冊のうち

紙本活版 明治34～大正8年(1901～1919)
大谷大学図書館蔵

仏教の真意を平易な言葉で一般の人に伝えるために浩々洞が刊行した雑誌。印刷を併人の富沢忠子に相談し、表紙絵・カットを中村不折に依頼、表題三文字を中国時代の書家である褚遂良の書から採字した。

17 『精神講話』 1冊

紙本活版 明治時代(明治35年～1902)
大谷大学図書館蔵

浩々洞で毎日暮日に清沢5洞人によって編された精神講話のうちの清沢の講話集。「仏による勇氣」は明治35年(1902)1月26日の講話で語られたもの。本品は第10版で、同42年(1909)刊。

18 『仏教辞典』 1冊

紙本活版 明治時代(明治42年～1909)
大谷大学図書館蔵

佐々木月穂を中心に浩々洞で編集・刊行された仏教辞典。見出し語は約2万、仏教用語のほか人名・地名を収録し、独特な読み方に特色を付し、コンパクトながら総合的な仏教辞典となっている。

19 『真宗聖典』 1冊

紙本活版 明治時代(明治43年～1910)
大谷大学図書館蔵

明治44年(1911)親鸞六五〇回忌を機に浩々洞で編集・刊行された浄土真宗の聖典集。大正年間に増補改訂され昭和4年(1929)には第98版に及んだ。本品は第14版(明治45年刊)。

20 『親鸞聖人御伝鈔講話』 1冊

紙本活版 明治時代(明治44年～1911)
大谷大学図書館蔵

親鸞六五〇回忌に際して浩々洞で刊行された『御伝鈔』に関する講話。『御伝鈔』は本願寺第三代覚如が著した『親鸞伝記』から詞書を抜き出したもの。内容からは親鸞の真実に迫ろうとする気風が窺える。

21 「清沢先生の教訓」 1冊

紙本活版 大正時代(大正4年～1915)
大谷大学図書館蔵

浩々洞で編集・刊行された清沢の教訓書。清沢十三回忌の記念に刊行された。浩々洞編『清沢満之全集』から、清沢の教訓となる100条をまとめたもの。

22 「清沢先生の信仰」 1冊

紙本活版 明治時代(明治42年～1909)
大谷大学図書館蔵

「我は此の如く如来を信ず(我信念)」に関する奥崎の講話集。清沢の七回忌に際し浩々洞が刊行した。清沢の東京大学時代の学友であり、教育者でもあった沢村政太郎の序を付し、巻頭の6回にわたる講話を収録する。

23 清沢満之七回忌追悼会写真 1枚

モノクロ写真 明治時代(明治42年～1909)
真宗総合研究所大谷大学史料館蔵

清沢満之七回忌追悼会に際しての記念写真。真宗大学講堂および浅草本願寺にて3日間にわたり追悼会および講話の会が開かれた。背景には真宗大学の東京開学を記念して建立された「知遵守退輪」がみえる。

III 真宗大学東京開校

24 『真宗各学設立申請書控』 1冊

紙本墨書 明治時代(明治32～33年～1899～1900)
大谷大学図書館蔵

東本願寺が企画した真宗大学、真宗京都中学、真宗東京中学などの設立申請書の控。明治32年(1899)10月、真宗大学は私立学校の許可願を京都府知事の内海忠勝に申請、同年11月7日に認可された。

25 「学位認定申請書類」(『真宗大学条例』のうち) 1冊

紙本墨書 明治時代(明治33年～1900)
真宗総合研究所大谷大学史料館蔵

明治33年(1900)2月、文部大臣の神山資紀に学位認定を申請し、同月に認定された。学位認定とは、徴兵令第13条で、徴兵猶予された官立府県立中学校と同等以上と認めることである。

26 「菓鴨村真宗大学ノ図」 1枚

紙本墨書 明治時代(19～20世紀)
大谷大学図書館蔵

真宗大学構内の平面図。敷地の総面積は6,830坪、建築総面積は831坪余り、教壇・寄宿舎・図書館・書庫・食堂など16の建物がある。総工費は57,000円。明治33年(1900)7月着工、翌年9月落成。

27 「真宗大学附近五千分之一略図・真宗大学構内略図」 1冊

紙本活版 明治時代(明治34年～1901)
大谷大学博物館蔵

真宗大学の周辺図および構内の略図。開校当時の菓鴨村は、のどかな田舎風景が広がっていた。近隣に奥崎監獄や東京真宗中学敷地などが記される。本品は『無量抄』6巻10号の付録として付されたもの。